

都道府県別の中学生の 教育格差

目次

1. 研究テーマに至った背景、理由
2. 学力テストの結果からの分析
3. 秋田県の教育政策
4. 教育投資額と学力の関係
5. 少人数クラスの実現可能性
6. まとめ

研究テーマに至った理由

- ▶ 9年間同じ義務教育を受けている中で子供たちの学力に差はどれ程生じるものなのか
- ▶ 高校に進むと学校によって学力の差が大きいため、その前の義務教育での都道府県の差はどれほどなのかを調べたいため

都道府県別の学力テストの結果

令和元年実施 中学生 国語のテスト

上位の県		下位の県	
1位	秋田県	43位	宮崎県
2位	石川県	43位	高知県
3位	福井県	45位	徳島県
4位	富山県	45位	鹿児島県
5位	茨城県	47位	沖縄県

参考資料

https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/19m_101.pdf

上位県、下位県の特徴

- ▶ 上位県の特徴

- ↳ 中部地方の日本海側に位置する県が多い。

- ▶ 下位県の特徴

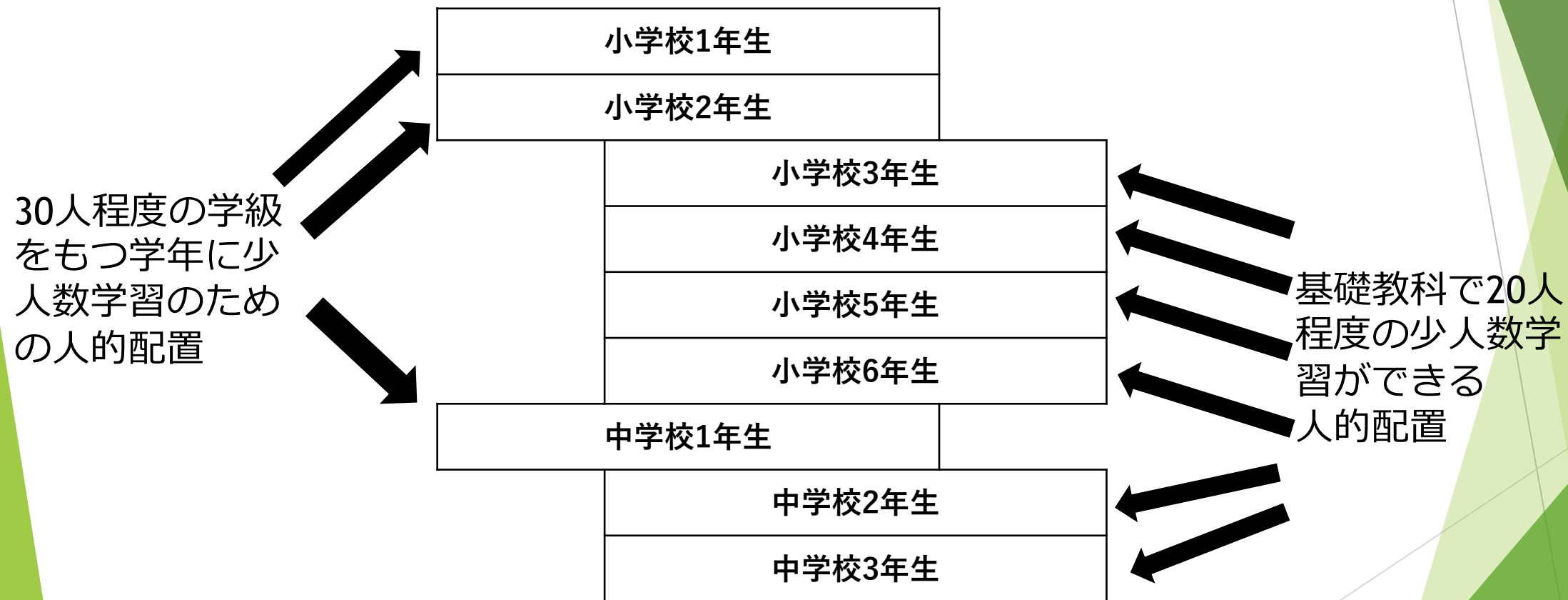
- ↳ 沖縄は人数の関係もあるだろうが、九州地方に位置する県が多い。

上位県は下位県の教育となにが違うのか？

上位県の教育政策の例

- ▶ 秋田県では2001年から少人数指導に取り組んでいる。
秋田県の実施状況・・・小学校で88.6%、中学校で91.7%の学校が実施。
- ▶ 目的
 - ・ 小学校低学年及び中学校1年における少人数学習は学習習慣を定着させ、基礎的な学習内容を確実に習得させる。
 - ・ 小学校高学年及び中学校2, 3年生及び高等学校での少人数学習は児童生徒の実態に応じて発展的な学習や補充的な学習を行うなど個に応じた指導を充実させる

少人数学習の配置図



少人数学習による成果

児童の面

- ▶ 秋田県教育庁義務教育課の調査によると、「勉強するのが楽しいとする児童が増えた」、「勉強はわかりやすいと感じる児童が多くなった」など勉強に対して積極性を感じられる。

教員の面

- ▶ アンケート調査によると、「一人一人にきめ細かい指導ができる」、「授業改善を図ろうとするいい機会となっている」などの意見。

授業を受ける側、行う側どちらからも好印象な取り組みであることがわかる。
また、保護者からも少人数学習を概ね好意的に受け止めている。

少人数クラスの実現可能性

▶ 教員一人あたりの生徒数

都道府県別の中学生の人数÷都道府県別の中学校の教員数で出す。

教員一人あたりの生徒数が最も多い県...東京都 17.51人

実際に少人数学習に取り組んでいる秋田県 12.62人

よって、データ上多少の差はあるが、どの都道府県でも教員加配を行わずとしても20人程度の少人数クラスによる学習が行えると言える。

秋田県が行っている他の対策

- ▶ 学習習慣をつかせるために家庭学習ノートというものを多くの学校で行っている。
- ▶ 家庭学習ノートとは
 - ・ 毎日1ページ学校のことや、それ以外のことでもいいのでノートをつける
 - ・ 保護者がチェックし、丸付け等行う
 - ・ 学校でも提出し、小学校1年生から毎日行うことで、家庭学習の習慣付けを行うことができる。

家庭学習ノート

- ▶ 秋田県だけではなく、学力テストの結果が3位に位置している福井県も家庭学習ノートに取り組んでいる。
- ▶ この2つの県には共通している部分があり、
それは学校後の通塾率の低さである。

通塾率について

都道府県	順位
神奈川県	1位 (56.1%)
奈良県	2位 (54.2%)
東京都	3位 (53.0%)
福井県	39位 (28.1%)
秋田県	46位 (17.6%)

- 秋田県、福井県ともに通塾率が低いことがわかる。
- 両県ともに家庭学習ノートによって家庭での学習が充実しているため塾に通う生徒が少ないと考えられる。

学力に格差が生じる要因

1. 勉強に対する意欲の差
2. 教育にかける費用が関わっているのではないかと考える

実際この二つは学力テストの結果と因果関係があるのか？

学習意識と学力

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
秋田県	47.1	42.7	8.9	1.3
沖縄県	29.3	45.7	20.2	4.5
全国平均	32.5	44.9	18.1	4.4

国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
秋田県	31	48.3	18.1	2.6
沖縄県	20.4	43	29.4	7
全国平均	20.9	43.5	28.4	7

国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
秋田県	36.7	46.7	14.2	2.4
沖縄県	22.8	42	27.5	7.4
全国平均	25.2	43.2	24.6	6.8

結果

- 秋田県は全国平均と比べて、学習への意欲が高く、
沖縄県は全国平均と比べて、学習への意欲が低い
といえる。

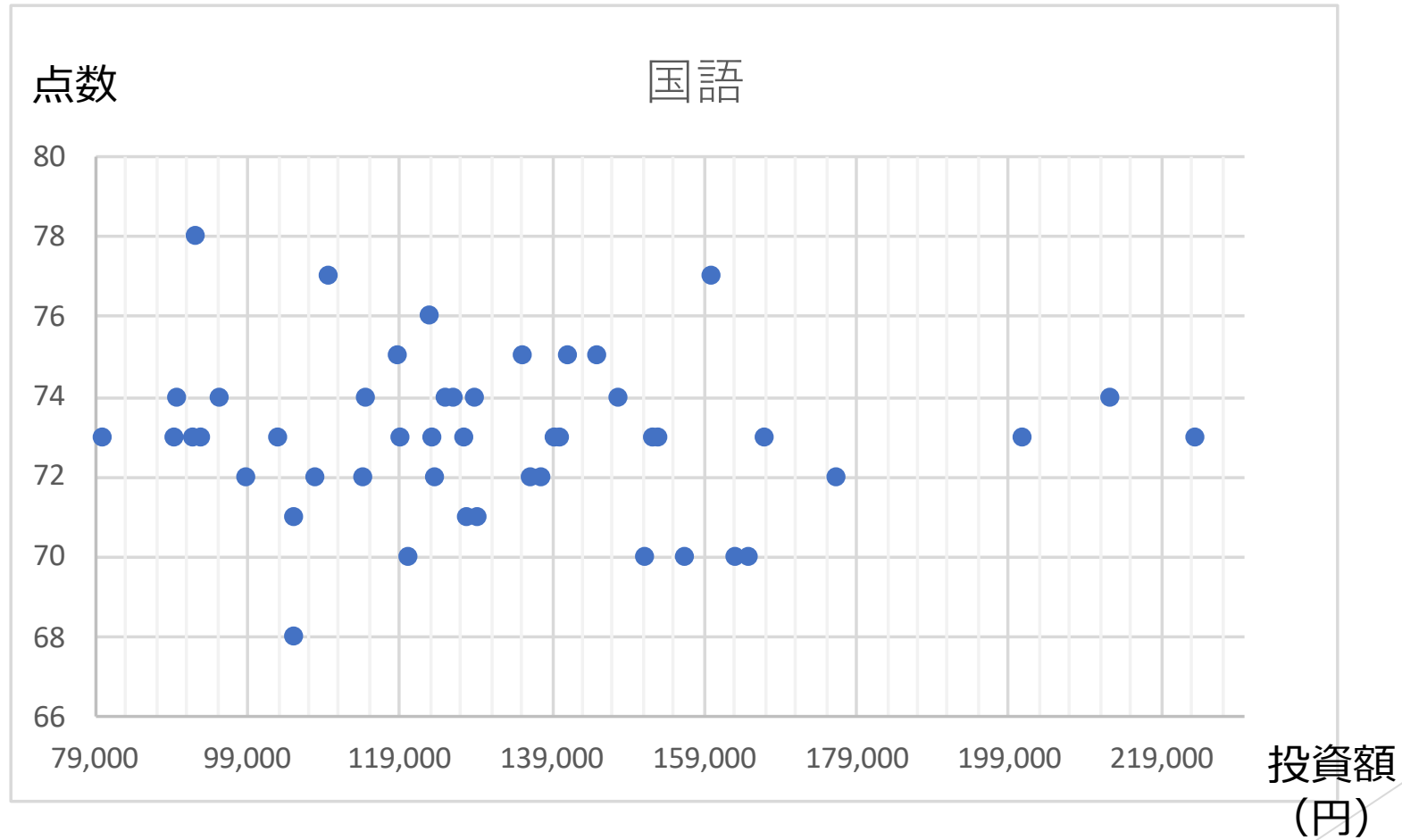
→学習への向き合い方と学力には一定の関係がある

教育投資額と学力の関係

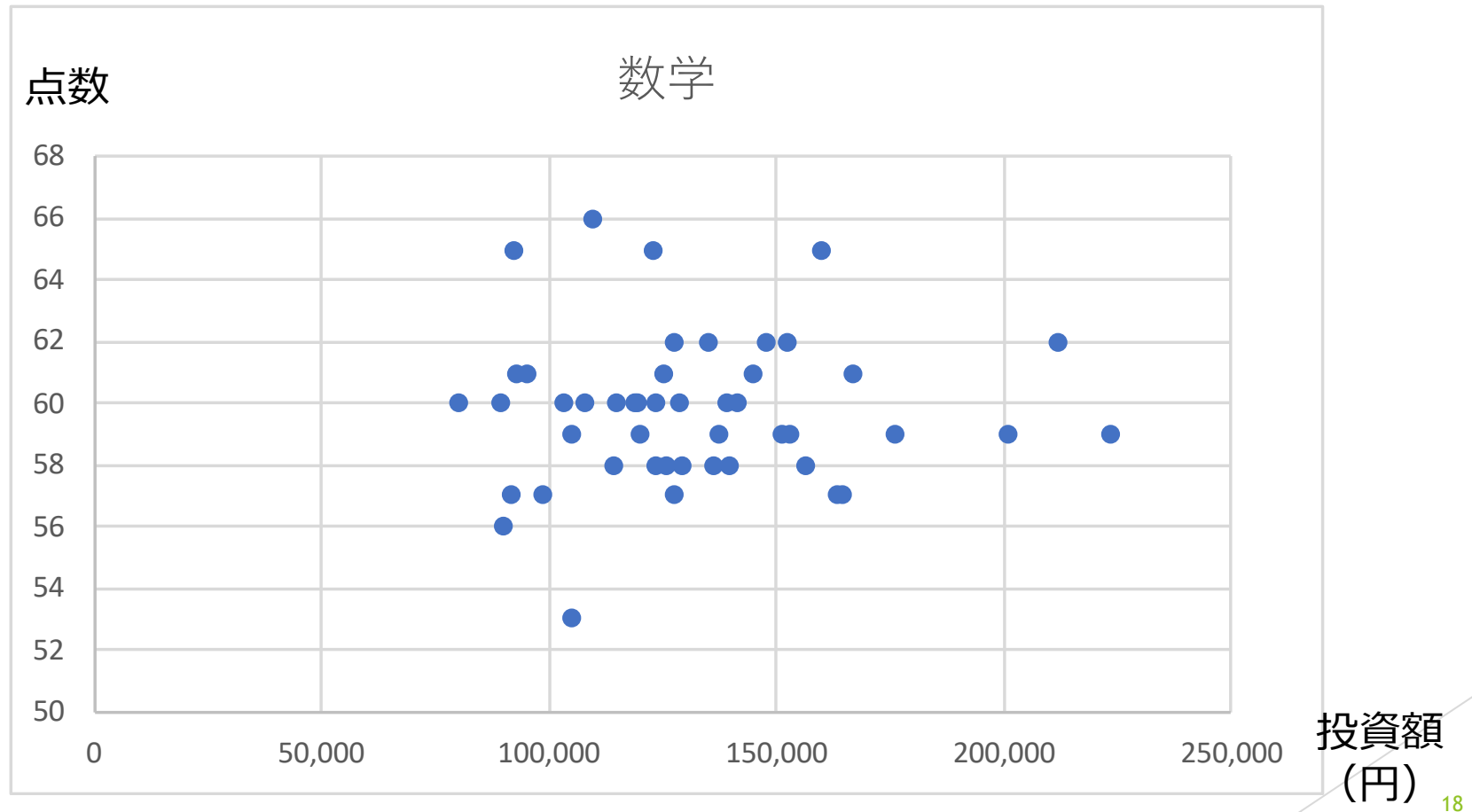
- ▶ 教育費(学校授業料、塾や専門学校の費用、教科書、学習参考書代など)

	教育費	国語	数学
秋田県	91,826円(43位)	78点	65点
大阪府	156,346円(9位)	70点	58点
鹿児島県	162,984円(7位)	70点	57点
沖縄県	104,932円(38位)	68点	53点
埼玉県	223,384円(1位)	73点	59点
平均	135361円	73.2点	60.3点

教育投資額と学力の関係



教育投資額と学力の関係



貧困率と学力の関係

	貧困率	国語平均点	数学平均点
秋田県	9.90%	78点 (1位)	65点(2位)
沖縄県	37.5%(貧困率1位)	68点(47位)	53点(47位)
大阪府	21.8%(貧困率2位)	70点(46位)	58点(45位)
鹿児島県	20.6%(貧困率3位)	70点(46位)	57点(40位)
全国平均	13.80%	73.2点	60.3点

- ▶ 貧困率の高さと、学力の低さには因果関係がある。

<https://todo-ran.com/t/kiji/19285>

結果

- ▶ 教育投資額が多いと言って、学力テストの結果も高くなるという因果関係はない
- ▶ しかし、教育投資額が少ない県には学力テストの結果も低いという関係は概ね成り立つと考えられる。

まとめ

- ▶ 他地域でも少人数クラスによる授業を取り入れることによって貧困率の高い県も学力上位の県との差を埋めることができ、中学生の教育格差は少しずつ埋まっていくものと考えられる。
- ▶ 家庭学習ノートの導入によって家庭学習時間を増やすことが学習意欲の上昇に繋がり、テストの結果が良くなっていくと考えられる。